

令和5年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）
島根県（公立）の結果概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

(1) 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(2) 特別支援学校及び小中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 調査実施日 令和5年4月18日（火）

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の①と②を一体的に出題

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 県内公立学校で調査を実施した学校数・児童生徒数

市町村立小学校 193 校、義務教育学校前期課程 2 校及び県立特別支援学校小学部 1 校

小学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施児童数
公立学校合計	196	196（100%）	5,419 人

市町村立中学校 91 校、義務教育学校後期課程 2 校及び県立特別支援学校中学部 4 校

中学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施生徒数
公立学校合計	98	97（99%）	5,026 人

II 公表について

1 公表の内容

(1) 島根県及び全国の教科に関する調査の結果

(2) 島根県及び全国の質問紙調査の結果

児童生徒質問紙、及び学校質問紙の回答状況

2 公表結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であること

3 その他

島根県教育委員会のホームページ及びしまねの教育情報 Web「EIOS」に公表資料を掲載

III 教科に関する調査の結果

1 結果の概要（島根県と全国の平均正答率との比較）

- ① 中学校国語においては、全国平均並みであった。
- ② 小学校国語、算数、中学校数学、英語においては、全国平均を下回った。
- ③ 小学校国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均並みであったが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」は、全国平均を下回った。
- ④ 小学校算数では、全ての領域が、全国平均を下回った。
- ⑤ 中学校国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均を上回った。「話すこと・聞くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均並みであったが、「書くこと」は、全国平均を下回った。
- ⑥ 中学校数学では、「データの活用」の領域は、全国平均並みであったが、その他の「数と式」「図形」「関数」の領域は、全国平均を下回った。
- ⑦ 中学校英語では、全ての領域が、全国平均を下回った。

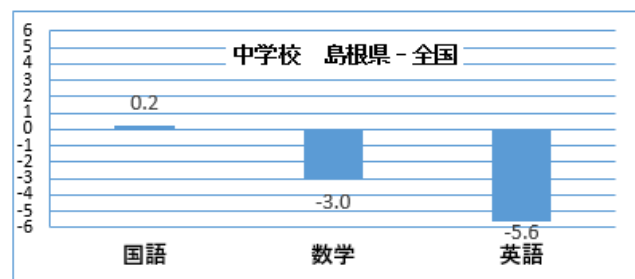
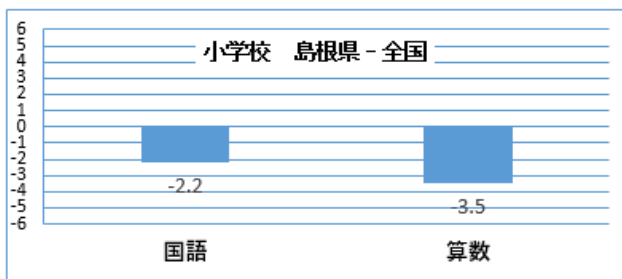
2 各教科の平均正答率

【小学校】

	平均正答率 (%)		
	島根県	全国	差
国語	65	67.2	-2.2
算数	59	62.5	-3.5

【中学校】

	平均正答率 (%)		
	島根県	全国	差
国語	70	69.8	0.2
数学	48	51.0	-3.0
英語	40	45.6	-5.6



【参考】各教科の正答率の全国との差（経年変化）



※1 令和2年度の調査は中止

※2 平成30年度までは、A問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（主として「活用」に関する問題）で実施

※3 英語は、平成30年度、令和3年度、令和4年度は実施なし。

3 各教科の正答数分布グラフ及び分類・区分別集計結果

○：県が全国を2ポイント以上、上回るもの ー：県と全国の差が2ポイント未満のもの △：県が全国を2ポイント以上、下回るもの

【小学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

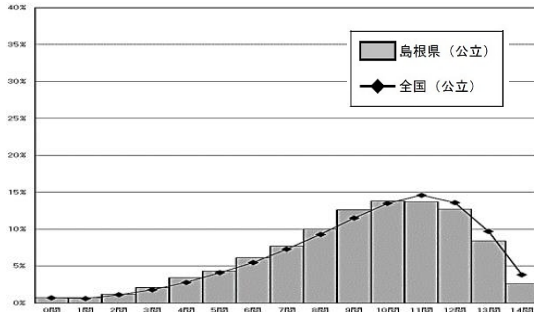
【これまでの課題】

- A 指定された長さで意見文を書くこと、段落の役割について理解し、指定された段落構成で意見文を書くことに課題がある。
- B 自分の意見を支える理由を明確にして書くことに課題がある。
- C 情報と情報の関係を理解し、目的に応じて文章を書くことに課題がある。

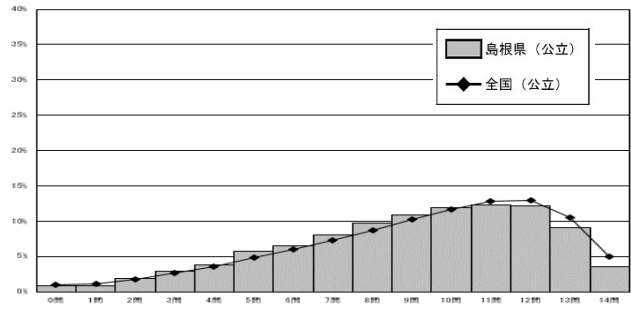
【本調査の状況】

- ・高正答率が全国と比較して少ない。
 - ・県平均正答率は65%であり、全国を2.2ポイント下回っている。
 - ・「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」は全国を下回っている。
- ①日常生活と関連が強い漢字や敬語については、おおむね理解が進んでいる。
- ②指定された文字数や条件で書くことについては、やや改善が見られる。…A
- ①資料となる複数の情報を関連付けて、自分の考えを表現することに課題がみられる。…B、C
- ②多くの資料を読み取り、そこから必要な情報を取り出す力が弱い。特に文章で表現された内容の読み取りが不十分である。…C

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】[R4]



2 分類・区分別集計結果 (R5)

学習指導要領の内容	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
話すこと・聞くこと	3	70.6	72.6	-2.0 △
書くこと	1	22.6	26.7	-4.1 △
読むこと	3	68.0	71.2	-3.2 △
知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）	5	70.9	71.2	-0.3 ー
知識及び技能（情報の扱い方に関する事項）	2	61.1	63.4	-2.3 △

【参考】[R4]

学習指導要領の内容	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
話すこと・聞くこと	2	63.6	66.2	-2.6 △
書くこと	2	47.3	48.5	-1.2 ー
読むこと	4	62.4	66.6	-4.2 △
知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）	5	68.6	69.0	-0.4 ー
知識及び技能（我が国の言語文化に関する事項）	1	82.3	77.9	4.4 ○

3 成果が見られる問題2問

<p>[問題番号] ③二「話すこと・聞くこと」 ②</p> <p>[島根県値 69.7%] [全国値 70.2%]</p> <p>[問題内容] 寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについてわかったことをまとめて書く</p>
<p>[問題番号] ①二「書くこと」 ②</p> <p>[島根県値 22.6%] [全国値 26.7%]</p> <p>[問題内容] 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。</p>

課題のある問題2問

<p>[問題番号] ②二「読むこと」 ②</p> <p>[島根県値 61.2%] [全国値 67.4%]</p> <p>[問題内容] 【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する。</p>
<p>[問題番号] ①二「書くこと」 ①・②</p> <p>[島根県値 22.6%] [全国値 26.7%]</p> <p>[問題内容] 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。</p>

【小学校 算数】

・：概要 ○：成果 ●：課題

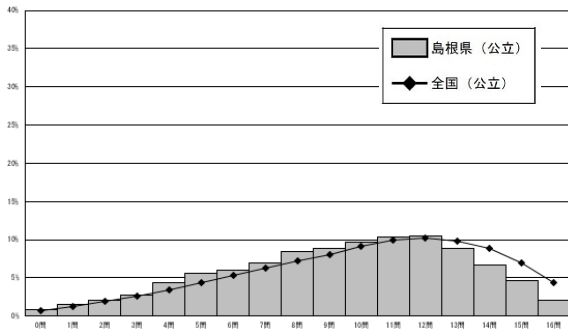
【これまでの課題】
 A 平均の意味について理解することに課題がある。
 B 比の理解や比を簡単にすることに課題がある。
 C 式や言葉を用いて記述することに課題がある。

【本調査の状況】
 ・高正答率が全国と比較して少ない。
 ・県平均正答率は59%であり、全国を3.5ポイント下回っている。
 ・領域別では、すべての領域について全国を下回っている。

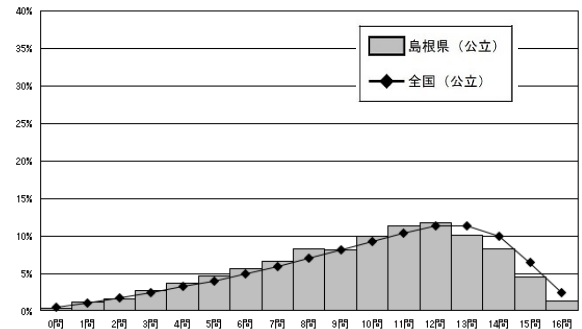
①式が示された計算問題は正しく計算することができる。
 ②示された図形の名称について正しく答えることができる。

❶日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる2つの数量の関係について考察することに課題がある。…C
 ❷図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量などについて考察することに課題がある。…C

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】[R4]



2 分類・区分別集計結果 (R5)

学習指導要領の領域	対象設問数※	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
数と計算	6	63.8	67.3	-3.5	△	
図形	4	43.3	48.2	-4.9	△	
測定	0					
変化と関係	4	66.6	70.9	-4.3	△	
データの活用	3	62.8	65.5	-2.7	△	

【参考】[R4]

学習指導要領の領域	対象設問数※	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
数と計算	6	67.5	69.8	-2.3	△	
図形	4	60.7	64.0	-3.3	△	
測定	0					
変化と関係	4	49.0	51.3	-2.3	△	
データの活用	3	66.8	68.7	-1.9	-	

3 成果が見られる問題2問

[問題番号] ① (4) 「数と計算」 ①
 [島根県値 81.1%] [全国値 80.8%]
 [問題内容] 全部の椅子の数を求めるために、
 50×40 を計算する。

[問題番号] ② (1) 「図形」 ②
 [島根県値 56.4%] [全国値 59.8%]
 (図形選択 [島根県値 86.8%] [全国値 86.2%])
 [問題内容] テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ。

課題のある問題2問

[問題番号] ① (3) 「変化と関係」 ①
 [島根県値 48.7%] [全国値 55.5%]
 [問題内容] 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く。

[問題番号] ② (4) 「図形」 ②
 [島根県値 12.8%] [全国値 20.8%]
 [問題内容] テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。

※グラフの設問数と分類・区分別集計結果の対象設問数が一致しないのは、1つの設問に複数の学習指導要領の領域が含まれているため。

【中学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

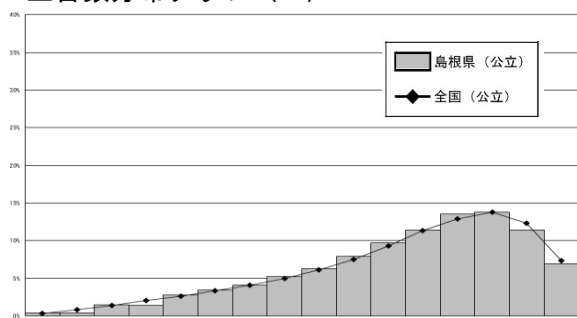
【これまでの課題】

- A 作文問題の無答率が高く、まとまった分量の文章を書くことや、問題を解く際の時間配分に課題がある。
- B 既習の漢字の読み書き、敬語や歴史的仮名遣いの理解に課題がある。
- C 自分の考えがわかりやすく伝わるように資料と関連付けて表現したり、資料の示し方を工夫したりすることに課題がある。

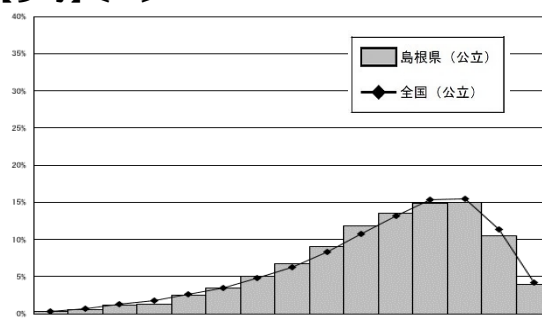
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は70%であり、全国並みである。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国を上回っている。
- ・「書くこと」は全国を下回っている。
- ①既習の漢字の読み書き、歴史的仮名遣いの理解に改善が見られる。…B
- ②自分の考えをまとまった分量の文章として書くことに改善が見られる。…A
- ①複数の資料を比較して情報と情報との関係を捉えること、それをもとに自分の考えを形成して文章を書くことに課題がある。…C
- ②表現の効果について、観点を明確にして文章を比較したり根拠を明確にして文章を書いたりすることに課題がある。

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】[R4]



2 分類・区別集計結果 (R5)

学習指導要領 の内容	対象 設問数 ※	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	81.5	82.2	-0.7	—
書くこと	2	61.2	63.2	-2.0	△
読むこと	4	62.9	63.7	-0.8	—
知識及び技能（言葉の特徴 や使い方に関する事項）	2	70.1	67.5	2.6	○
知識及び技能（情報の扱い 方に関する事項）	2	62.7	63.4	-0.7	—
知識及び技能（我が国の言 語文化に関する事項）	3	75.8	74.7	1.1	—

【参考】[R4]

学習指導要領 の内容	対象 設問数 ※	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	64.4	63.9	0.5	—
書くこと	1	46.6	46.5	0.1	—
読むこと	2	66.2	67.9	-1.7	—
知識及び技能（言葉の特徴 や使い方に関する事項）	6	71.5	72.2	-0.7	—
知識及び技能（情報の扱い 方に関する事項）	1	46.6	46.5	0.1	—
知識及び技能（我が国の言 語文化に関する事項）	3	70.8	70.2	0.6	—

3 成果が見られる問題2問

<p>[問題番号] 4一「我が国の言語文化に関する事項」 ①</p> <p>[島根県値 84.9] [全国値 82.5%]</p> <p>[問題内容] 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。①いひける</p>
<p>[問題番号] 2四「知識及び技能」 ②</p> <p>[島根県値 67.6%] [全国値 67.5%]</p> <p>[問題内容] 自分がこれからどのような本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く。</p>

課題のある問題2問

<p>[問題番号] 4三「書くこと」 ①</p> <p>[島根県値 48.1%] [全国値 50.0%]</p> <p>[問題内容] 現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。</p>
<p>[問題番号] 1二「情報の扱い方に関する事項」 ②</p> <p>[島根県値 63.6%] [全国値 65.1%]</p> <p>[問題内容] インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する。</p>

【中学校 数学】

・：概要 ○：成果 ●：課題

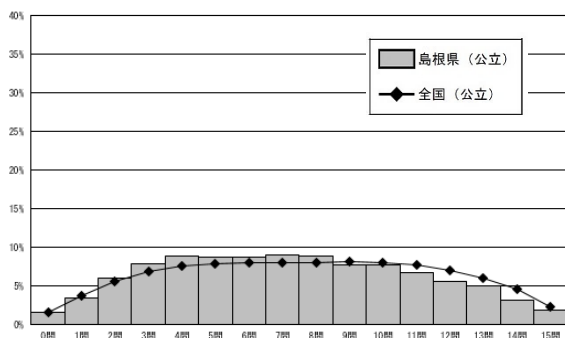
【これまでの課題】

- A 「関数」については、改善の傾向が見られるものの、変化や対応の特徴を基に説明することに課題がある。
 B カッコや分数を含むような、やや難易度の高い文字式の計算について、定着が不十分である。

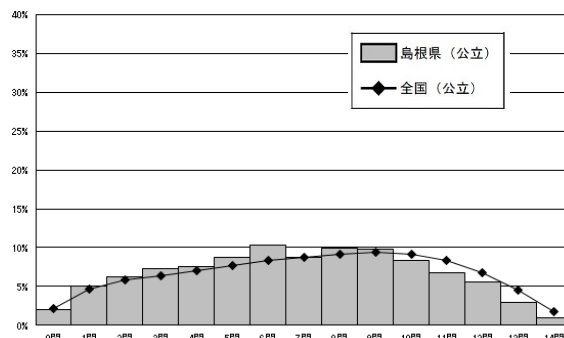
【本調査の状況】

- ・高正答率者が全国と比較して少ない。
 - ・県平均正答率は48%であり、全国を3.0ポイント下回っている。
 - ・領域別では、「数と式」「図形」「関数」の3領域については全国を下回っている。
- ①「関数」の基本的な知識・技能について改善がみられた。…A
 ②「データの活用」の数学的な表現を用いた説明ができています。
 ①「数と式」の数に関する基本的な意味及び概念の理解に課題がみられる。…B
 ②「図形」の基本的な性質についての理解に課題がみられる。

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】[R4]



2 分類・区分別集計結果 (R5)

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
数と式	5	58.9	63.0	-4.1 △
図形	3	29.4	33.2	-3.8 △
関数	4	48.4	51.2	-2.8 △
データの活用	3	48.6	48.5	0.1 -

【参考】[R4]

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)		
		島根	全国	差
数と式	5	53.9	57.4	-3.5 △
図形	3	41.1	43.6	-2.5 △
関数	3	38.9	43.6	-4.7 △
データの活用	3	56.8	57.1	-0.3 -

3 成果が見られる問題2問

- [問題番号] 8 (3) 「関数」 ☞①
 [島根県値 42.0%] [全国値 42.8%]
 [問題内容] グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区スタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する。
-
- [問題番号] 7 (2) 「データの活用」 ☞②
 [島根県値 36.5%] [全国値 33.6%]
 [問題内容] 「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する。

課題のある問題2問

- [問題番号] 1 「数と式」 ☞①
 [島根県値 36.8%] [全国値 46.1%]
 [問題内容] -5、0、3、4.7、9の中から自然数を全て選ぶ。
-
- [問題番号] 3 「図形」 ☞②
 [島根県値 26.4%] [全国値 30.4%]
 [問題内容] 空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ。

【中学校 英語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

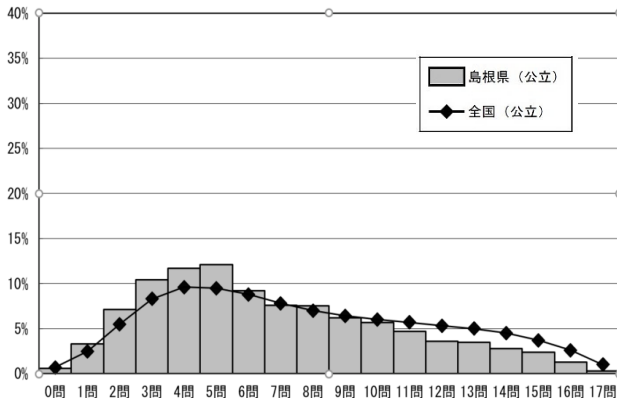
【これまでの課題】

- A テーマや対話の流れに沿って英文を書くなど、場面や状況に応じて既習の語彙や文法を活用し英文を書く力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。
 B 読んだ内容をもとに思考・判断したうえで、既習の語彙や文法を活用し場面や状況に応じた英文を書くなど領域を統合して活用する力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。

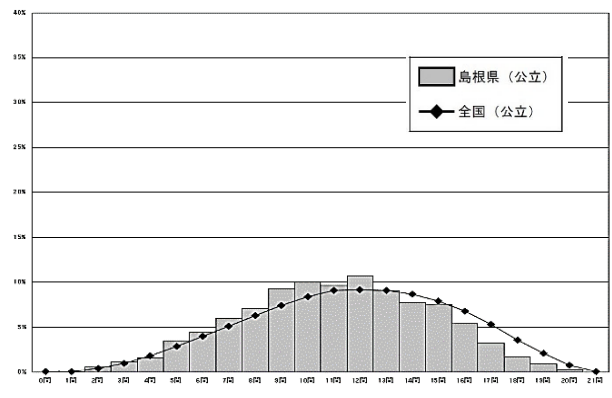
【本調査の状況】

- ・高正答率者が全国と比較して少ない。
 - ・県平均正答率は40%であり、全国を5.6ポイント下回っている。
 - ・領域別では、すべての領域について全国を下回っている。
- ①道案内等の内容については、具体的な場面を設定して言語活動を行うことが多く、生徒の理解につながっている。
 ②短い文章を読んで、最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりするような「読むこと」の指導が行われていると考えられる。
- ①音声や語彙、表現、文法や言語などの働きなどを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する技能に課題がある。
 ②文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことに課題がある。…A、B

1 正答数分布グラフ (R5)



【参考】[R1]



2 分類・区分別集計結果 (R5)

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
聞くこと	6	52.5	58.4	-5.9	△	
読むこと	6	46.2	51.2	-5.0	△	
話すこと[やり取り]	0					
話すこと[発表]	0					
書くこと	5	17.3	23.4	-6.1	△	

【参考】[R1]

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率 (%)			差	△
		島根	全国	差		
聞くこと	7	64.6	67.9	-3.3	△	
読むこと	6	54.6	55.6	-1.0	-	
話すこと[やり取り]	0					
話すこと[発表]	0					
書くこと	8	40.9	45.8	-4.9	△	

3 成果が見られる問題2問

[問題番号] ① (2) 「聞くこと」 ①
 [島根県値 62.0%][全国値 64.4%]
 [問題内容] 道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。

[問題番号] ⑧ (1) 「読むこと」 ②
 [島根県値 52.7%][全国値 56.1%]
 [問題内容] ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する。

課題のある問題2問

[問題番号] ① (3) 「聞くこと」 ①
 [島根県値 40.3%][全国値 49.8%]
 [問題内容] 買い物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。

[問題番号] ⑨ (1) ① 「書くこと」 ②
 [島根県値 31.4%][全国値 40.4%]
 [問題内容] 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。

IV 児童生徒質問紙・学校質問紙調査の結果

〔児〇〕：令和5年度 児童質問紙調査項目〇番	〔学小〇〕：令和5年度 学校質問紙（小学校）調査項目〇番
〔生〇〕：令和5年度 生徒質問紙調査項目〇番	〔学中〇〕：令和5年度 学校質問紙（中学校）調査項目〇番
※紙面の都合上、一部調査項目は簡略化して記載しています。	

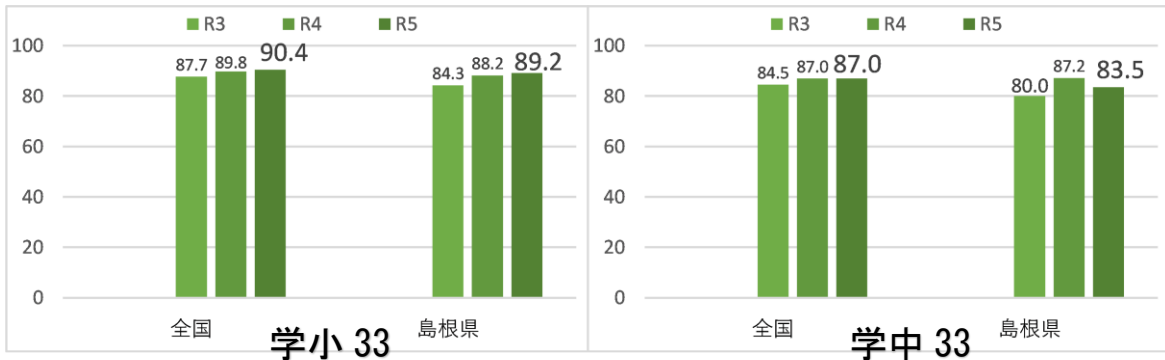
1 授業の質の充実

（1）これまでの課題と課題の改善状況を把握するための質問項目及び結果

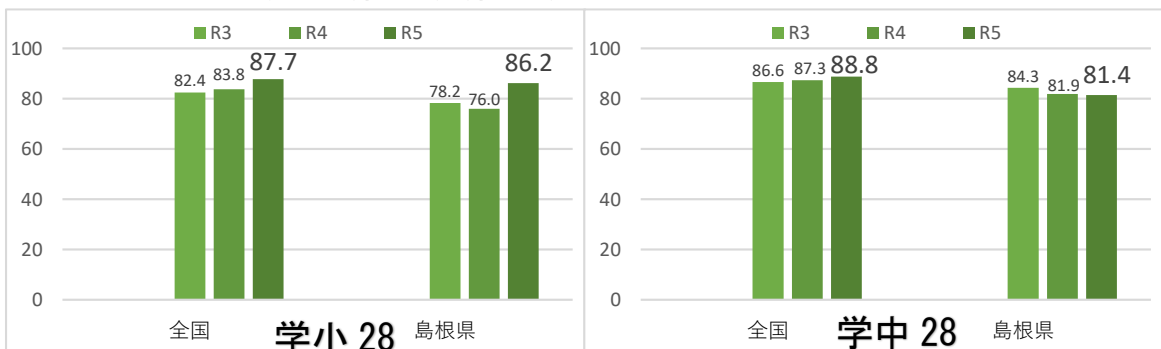
<p>【これまでの課題】</p> <p>○授業において、「話し合う目的や話し合いの視点を児童生徒が理解できるように提示すること」「個の考えを表現する時間と場を設けること」などを工夫する必要がある。</p> <p>○教科の系統性、教科間の関連性を意識して指導計画を作成し、児童生徒が学んだ知識や技能を活用する場面を意図的に設定する必要がある。</p> <p>○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるよう、自己の学びを振り返る時間を充実させるとともに、児童生徒にとって個別最適な学びとなるように授業を工夫する必要がある。</p> <p>○授業での ICT 機器を活用する割合は、前年度を大幅に上回ったが、全国値と大きな差がみられる。授業改善の手段の一つとして、日々の授業で効果的に ICT 機器を活用する必要がある。</p>
--

【質問項目及び結果】

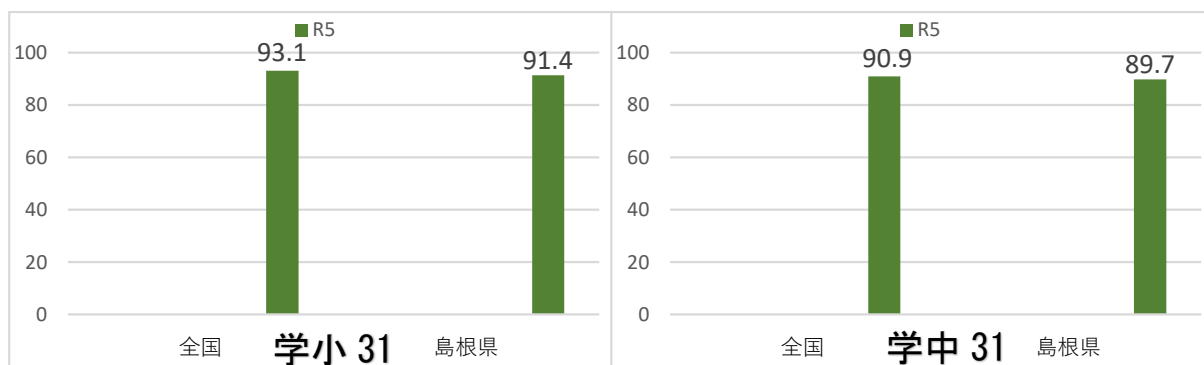
①調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか 〔学小 33〕〔学中 33〕



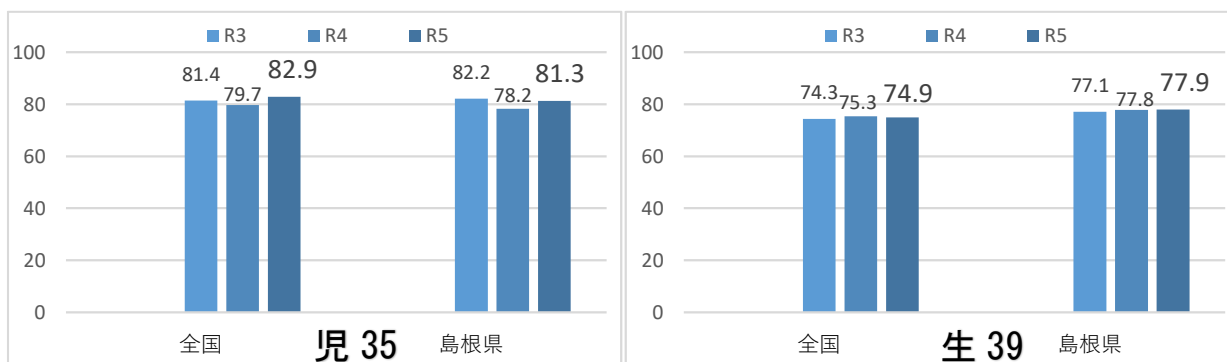
②調査対象学年の児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか 〔学小 28〕〔学中 28〕



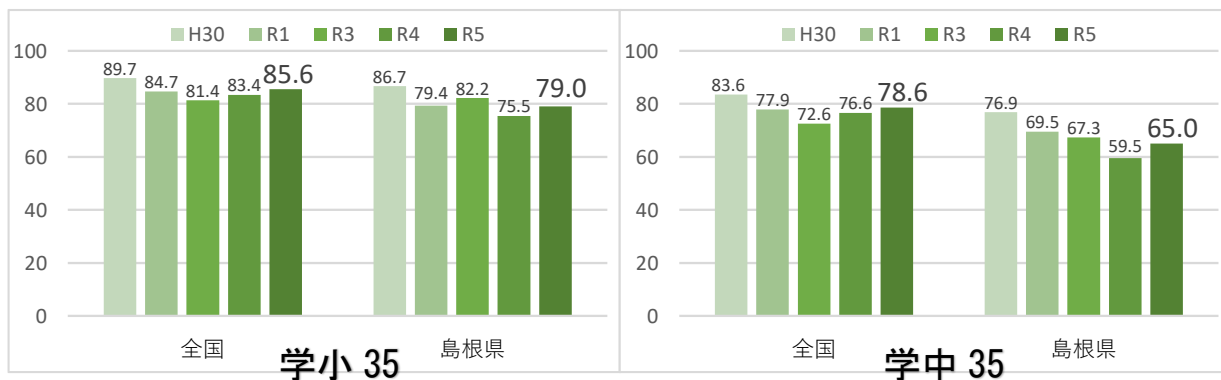
③調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか 〔学小31〕〔学中31〕



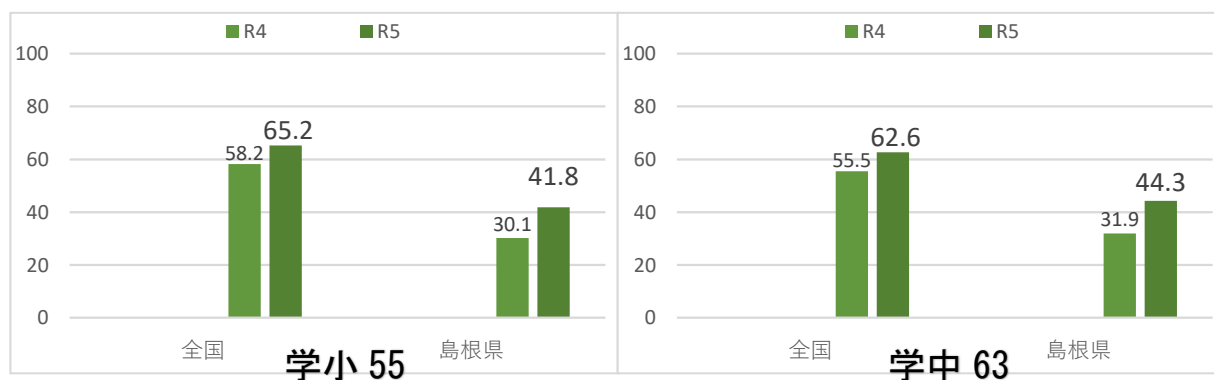
④5年生までに〔1、2年生のときに〕受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか 〔児35〕〔生39〕



⑤調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか 〔学小35〕〔学中35〕



⑥調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか 〔学小55〕〔学中63〕



※ほぼ毎日の割合

(2) 課題の改善状況と本調査で見られた課題 ※数値は質問紙において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした割合

- 小学校では、目的を明確にした対話的な学習が展開される割合が増えている。児童生徒が自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる場が十分に設定されていると考えられる。今後は、話し合いの質を高めるために、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表すること」等への手立てが必要である。
- 授業において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動が工夫されており、多くの児童生徒がそれを実感している。引き続き、協働的な学びと個別最適な学びの一体的な充実に向けた授業改善に取り組む必要がある。また、各校において ICT 機器の活用が目的とならないよう授業改善の一つの手段として意識し、効果的な日常活用を推進する必要がある。
- 現行の学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントが求められているが、各教科の学びを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設ける割合が減少している。各校において、校長のリーダーシップのもと、教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業づくりを進める必要がある。

2 家庭学習の充実

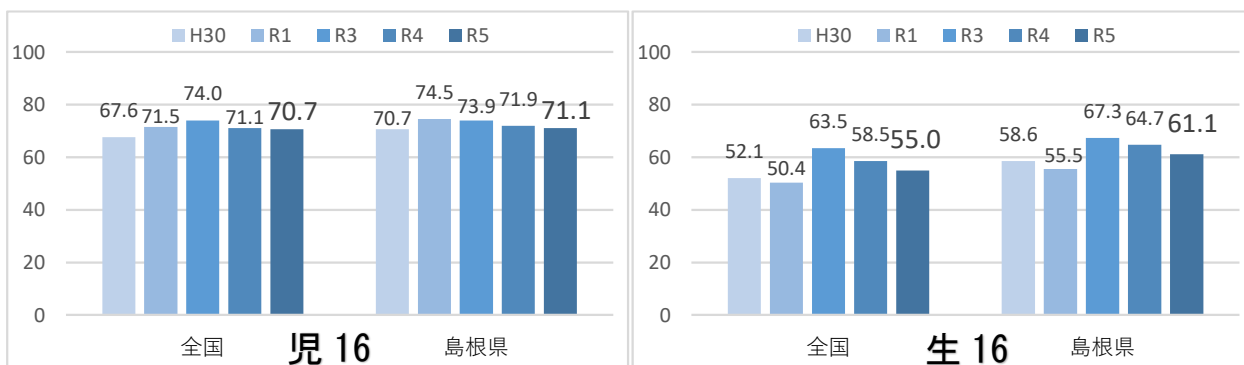
(1) これまでの課題と課題の改善状況を把握するための質問項目及び結果

【これまでの課題】

- 普段（月曜日から金曜日）学校の授業時間以外に1日あたり1時間以上勉強する児童生徒の割合が下がっている。

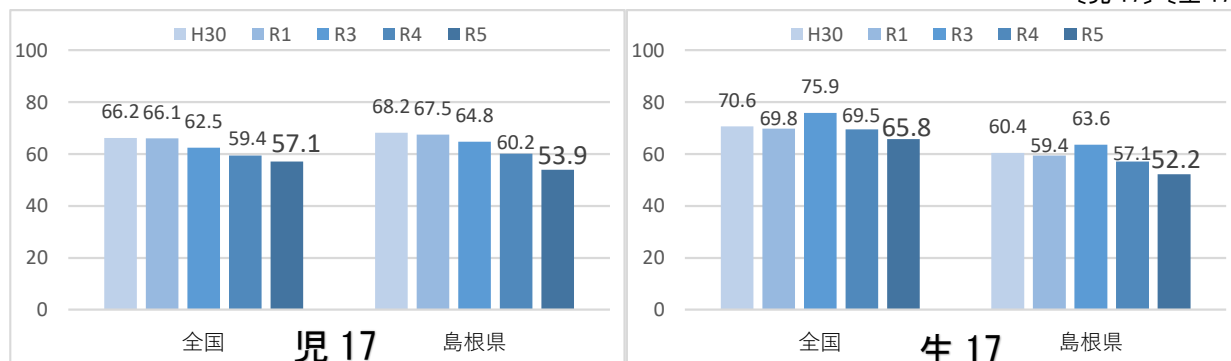
【質問項目及び結果】

⑦家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）〔児 16〕〔生 16〕



⑧学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

〔児 17〕〔生 17〕



※ 1時間以上勉強している割合

(2) 課題の改善状況と本調査で見られた課題 ※数値は質問紙において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした割合

○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は昨年度よりも低くなった。特に、中学校では依然として全国値との差が大きい。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合は児童生徒ともに全国値よりも高い。また、平日に学習を「全くしない」と答えた割合は全国よりも低い値となっている。休日においては、児童生徒ともに1日1時間以上勉強する割合が全国値を上回っている。引き続き、家庭学習について教職員同士が共通理解を図り、家庭での学習方法について具体例を挙げながら指導する必要がある。

3 地域に関わる学習の充実

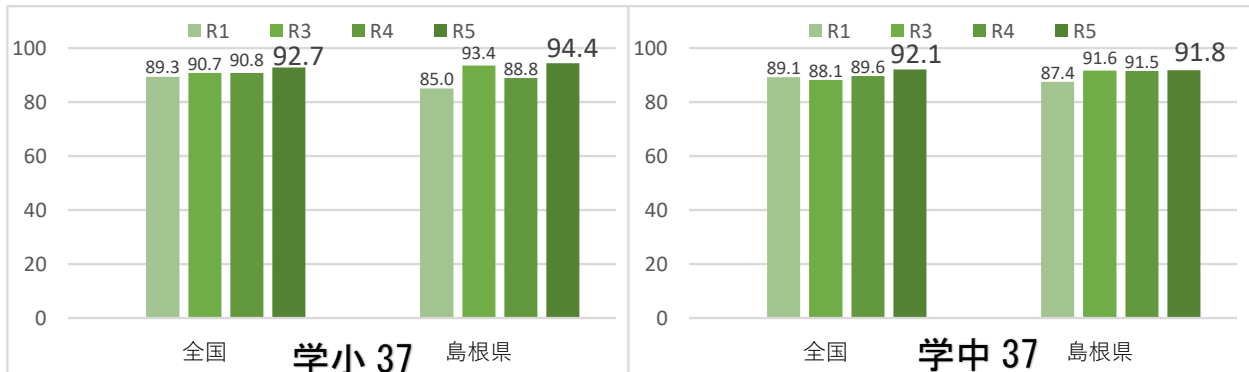
(1) これまでの課題と課題の改善状況を把握するための質問項目及び結果

【これまでの課題】

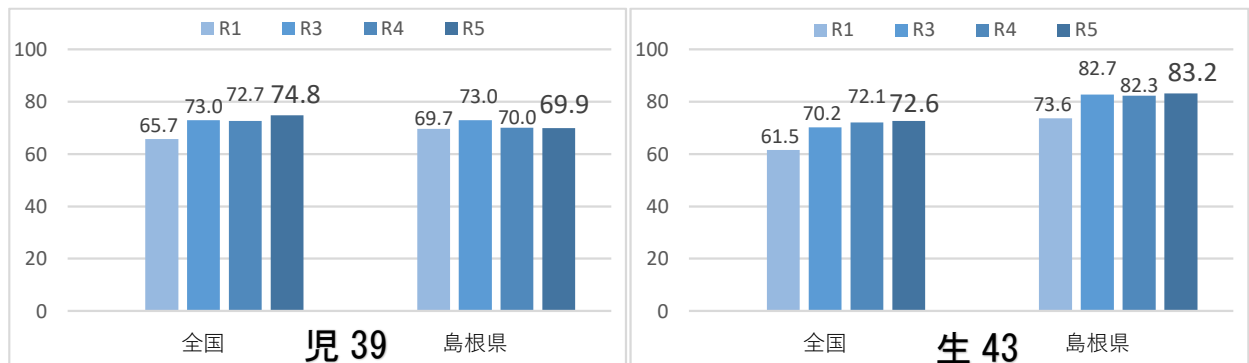
- 「総合的な学習の時間では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は小中ともに下がっている。
- 地域の行事に参加する児童生徒の割合は下がっている。

【質問項目及び結果】

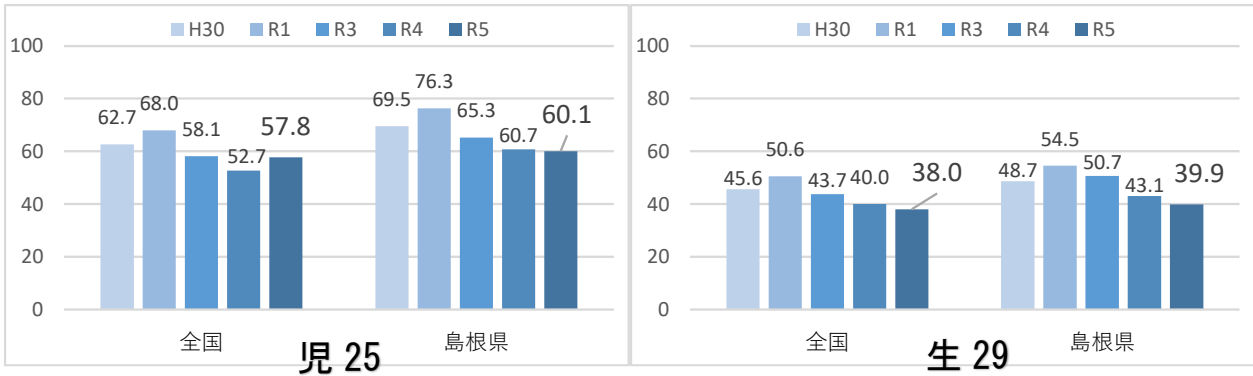
⑨調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか [学小37][学中37]



⑩総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか [児39][生43]



⑪今住んでいる地域の行事に参加していますか [児 25] [生 29]

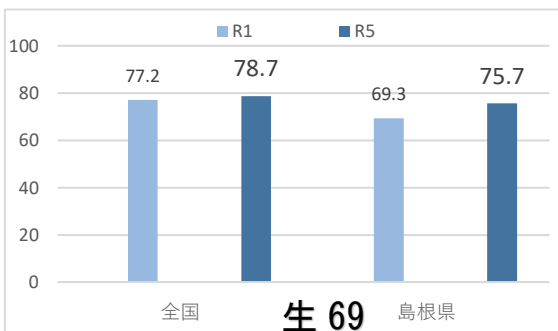


(2) 課題の改善状況と本調査で見られた課題 ※数値は質問紙において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした割合

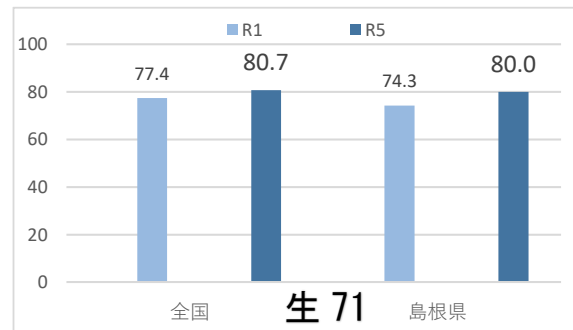
- 学校では、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導が十分に展開されていると考えられる。自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答えた生徒は全国値を上回っている。一方、児童は全国値を下回っている。引き続き、昨年度発行した「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業づくり」を行う必要がある。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、コロナ禍で活動が制限される中でも、児童生徒とも全国値を上回っている。これは、県が進めるふるさと教育の成果であると考えられる。今後も地域での体験や素材を教科等の特質に応じて活用し、児童生徒の興味関心を高めていく必要がある。

4 その他 ※数値は質問紙において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした割合

⑫ 1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか [生 69]



⑬ 1, 2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか [生 71]



- 英語の授業では、スピーチやプレゼンテーション、生徒同士による英語で伝え合う活動など学習指導要領で求められている授業が実施されている様子を伺うことができる。英語を使って何ができるようになるかといった学習到達目標をCAN-DOリストに明確に示し、教員が生徒と目標を共有しながら、生徒が「〇〇ができるようになった」と実感できる授業づくりを今後も継続して行う必要がある。

V 今後の取組

- 1 県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

小中高の系統性・連続性を図りながら、基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせ、人生や社会で生かすことのできる確かな学力と学び続ける意欲を育む教育を推進する。

○授業の質の充実

全国学力・学習状況調査等の各種調査の分析を参考にし、各教科等の連携を図りながら組織的かつ計画的に授業の質を充実させる。

- ・自分の考えを語尾までしっかりと話すこと（説明すること）、書くことを繰り返し指導する。
- ・話し合い場面において、「自分の考えを深めたり、広げたりすること」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表すること」等を具体的に指導する。
- ・「調べる場面」「考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士がやり取りする場面」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」などで1人1台端末を日常的に活用する。
- ・児童生徒が身につける資質・能力を明確にした授業を行うとともに、校区の小中学校においては育てたい子ども像などを共有する取組を一層進める。

○家庭学習の充実

家庭学習と授業との有機的な結びつきを図るとともに、児童生徒が自分に合った学習方法を見いだすことができるよう、教員の指導改善や児童生徒の学習改善を行う。

- ・「教育情報誌第49号（令和5年3月）」等を活用し、授業を家庭学習につなぐ具体的な指導について教員が共通理解をする。
- ・学習内容を定着させる宿題だけではなく、自分にあった学習内容や方法を選んだり、学びを広げたり生かしたりできるよう、1人1台端末を活用した家庭学習の在り方の研究をする。

○地域に関わる学習の充実

児童生徒一人一人が自ら課題を見付け、解決への道筋を見通しながら様々な解決方法を考える姿勢を育成する。

- ・「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業」を行う。
- ・地域素材の効果的な活用と、各教科等で身に付けた知識や技能を地域や社会での生活に生かそうとする意欲の醸成を行う。

- 2 課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成し、各学校に配信・配付する。

また、学校訪問指導及び教職員研修等において組織的な授業改善が進められるよう働きかける。